

平成18年12月8日

〒590-0494
京都大学原子炉実験所
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25
蒼天社政治情報センター
代表・石川鐵也



公 開 論 議 書

平成18年11月27日第626-49-12413-4号配達記録郵便での公開質問状Vに対する文書回答(11月30日付・1日差出)ありがとうございました。

先月末日に滋賀県庁を訪問、その後に岡山、鳥取と回り、余呉問題の第二幕を見届けて昨日深夜に戻りました。本日も、本書作成後に福島県庁を訪問しなければなりません。早急なる回答をいただいたにもかかわらず、同理由にて返書遅れましたことをお詫びいたします。

さて、今般回答書を拝見しましたが、これまで同様、各種産業や個人の本来あるべき姿については記されておられません。小出さん自身も、最初の回答段階ですでに意見は出尽くしている旨を書かれております。よって、質問を終了させ、小出さんの意見に対する私の見解を述べさせていただきます。私の見解は、政府、事業者の本音と認識なされ、反論ありましたならば年内での反論をお願いします。

— 記 —

1. 小出さんの主張「原子力発電を即時停止し、太陽エネルギー発電に移行するまでは化石燃料で発電する」について

小出さんの今回の回答にあるように、小出さんの主張を実践するためには「たくさん問題が生じます」。小出さんの主張が現実論か非現実論かを確認したいのであれば、まず、これまで小出さんの主張を取り上げてきたテレビ局、新聞社等のマスコミ各社に対し、「貴社エネルギー消費量を2分の1にしてください」と要請してください。実践社数で非現実的と判断されるはずですが。

また、インドネシアやロシアなどが天然ガスのバルブを閉めるだけでも、市民エネルギー調査会のシナリオは根本から崩れます。シナリオには外交の不備、途上国の買い占め等による不手際が生じた場合の対処方は記されておられません。エネルギー争奪戦に敗れば、大量失業者もでるのです。

電力も営利企業です。原子力発電の廃炉が利益に転換されなければ、廃炉の検討など行いません。常識ある人々も同様に考えていると思います。

2. 小出さんの主張「今後の研究で地層処分よりましな処分方法が見つかる可能性はあるのだから、今、安全の保証ができない方法で埋め捨てにすることはならない」について

小出さんらが具体的な代案を示さずに反対すればするほど、原環機構の予算と員数は増えていき、政府強権派は、「都道府県知事の意見尊重不要。法律改正」と唱

えやすくなるのです。「代案なき小出さんらの活動は、税金の無駄遣いへの呼び水の役割を担っている」と言っても過言ではありません。

以前、動燃が行った地質調査の情報は完全公開されないが、応募し、協定を締結すれば、関する情報は公開されるのです。小出さんは、「何かあったときに対処できるから管理の方が良い」と主張されますが、それなら、地中管理の方が良いのではありませんか。私の主張を読み直してください。

反対派の滋賀県嘉田知事でさえ、責任ある立場にあることを顧みず、「議論に値する反対意見はありますか」といった問いかけに対し、「処分場立地に対して多くの反対意見がございますが、こうした意見の是非を論じるのではなく、現にこうした反対意見があることを十分に認識した上で、国において、必要な対策がとられるべきと考えます（回答書原文）」と答えるのです。意見の是非を論ぜず、必要な対策など講じられるはずもありません。当該QA書を閲覧した報道関係者全員が疑問を発しましたことは言うまでもありませんでした。

小出さんには「3つの余裕」の意味が解らないとのこと、驚きました。以前、評論家が「3つのゆとり」に変えて説明していました。小出さん言うところの「長い時間がかかるから、少しでも早く行動する」は時間的余裕です。お金や、物があるうちに行動するが物質的余裕です。外圧等で追い詰められるとどうなりますか。故に精神的余裕なのです。簡単に説明しましたが、文量を多くしないと理解されませんか。

3. 小出さんの主張「火力発電設備に余裕がある」について

安定供給、安全実施は安心を得るための両輪であります。貧資源国日本にとっては温暖化対策等をも考慮し、石炭、石油、天然ガス、原子力、自然エネルギー等を効率良く組み合わせていかななくてはなりません。故に電力は、火力発電設備を解体せず保存させるのです。電力がその存在を隠している訳でもありません。

4. 小出さんの主張「原子力発電は安定電源ではない」について

今般回答書でも「有無を言わずに同時にいっせいに停止せざるを得ない事例が過去に何度もあった。私の主張がおかしいと言うのであれば、事実を示すべきでしょう」と述べておられますが、実際に、有無を言わずにいっせいに停止させた事例など存在しないのですから、事例など示せるはずもありません。東京電力もチェルノブイリ型原発も、有無を言わず、無計画かついっせいに停止した訳ではありません。原子力発電もまた安定電源です！

5. 小出さんの主張「資料・データ」について

小出さんの提出された資料は、こうなっている、このようなものがある、といった類いの物で、エネルギー消費量を2分の1にできるとか、原子力発電を撤廃可能とする物ではありません。当該資料を国や事業者に渡したところで、「なんでしょうか」で終わることでしょう。

6. 小出さんの主張「学問は多様性こそが命です」について

学問は多様性には同意しています。故に、反対ありきは問題と言っております。

リスクを克服してほしいのです。「科学は進歩します」と答えても、克服させる心意気がなければ関する進歩はあり得ないと思います。私はそういったことをも考慮した上で、「昨日の100パーセントは今日の100パーセントに非ず。今日の100パーセントは明日の100パーセントに非ず。そういった気持ちを持続させなければならない」と説き続けているのです。

7. 小出さんの主張「何らのベネフィットも受けないままリスクだけを過疎地の住民に押し付けている」について

何にでも、リスクもあれば利益もあると思います。都市部に暮らす都民も不利益を被っていますし、過疎地で暮らす住民の中にも利益を得ている人々がいるのも事実です。一昨日乗車した敦賀市で生活するタクシー運転手は、「反対派が唱えているタラ、レバ論は、起きるときは起きるし、起きないときは起きない。反対派の主張が正しければ、原発を誘致した自治体は皆死滅している。でも、実際は違うよ」と語りました。一部の事実ではなく全体的事実（真実）で論議すべきと思います。

書きたいことは山ほどあるのですが、今回は時間の都合でこれで失礼します。

以上